

Monthly *

信用金庫

2015
July

7



この街と生きていく。

全国信用金庫大会開催される

省エネ・低炭素社会を見据えた信用金庫の取組み 信金中央金庫 地域・中小企業研究所

事例 1 帯広

事例 2 湘南

事例 3 新発田

私の経営理念・経営方針 新井久男 (高崎)

『2015年版 中小企業白書・小規模企業白書』の概要とポイント
~4つの視点と目標で、中小企業・小規模企業の現実を具体的に分析 三井逸友



クオリティ・シティ ドイツ・エアランゲン発 をめざせ 地域再生力のヒント

第 76 回 10周年の“BIG”プロジェクト

インストラクターにリードされ、10人余りの女性がテンポのよい音楽に合わせて踊る——ラテン音楽のステップを多用したフィットネス・プログラム「ズンバ」だ。これは、筆者が住むエアランゲン市（人口10万人）のコミュニティセンターで、6月の土曜日に行われたBIGプロジェクト10周年のパーティーで的一幕。“BIG”とは「健康への投資としての運動」（独語）を略したもので、同市が展開するスポーツプログラムだ。

このプログラムは、社会的弱者の女性が対象。水泳、自転車、ヨガ、ダンス、そして冒頭のフィットネス・プログラムのズンバなどのコースが用意されている。プログラムは半年クールで生まれ、今年の4月からのコースには約350人が参加。75%が外国系市民であり、60%はイスラム系の女性である。運動をする場所は、託児所完備でトレーナーは女性。完全に男性のいない環境をつくることで、イスラム系の女性でも精神的な負担なしにスポーツができるというわけだ。

プログラム運営を担当しているツザーナ・マイチックさんは「地元紙に広告を載せるなどの大々的な募集はかけてはいません。宗教施設や女性のグループ、社会福祉関係の施設などを地道にまわってプログラムの紹介をしました。あとは口コミで広がりました」と言う。こうしてプログラムの趣旨を対象者に伝えたかたちだ。参加者は25～55歳の年齢層が中心だが、下は15歳から、上は70代の女性も参加している。参加者の負担は、ドイツの物価感覚で言えば、1時間あたり100～300円ぐらいに抑えられ



パーティーでフィットネス・プログラム「ズンバ」を披露する女性たち



ており、経済的困窮にある人は無料で参加もできる。また、同プログラムは市内のアクセスのよいところで行われるので、気軽に足が向く。

BIGプロジェクトが始まったのは10年前。発端はエアランゲン大学のスポーツ・サイエンスの研究だった。社会的弱者の女性には、運動の機会が少ない。それだけに「こういうプログラムは地域の健康増進のインフラとして有用。決してエアランゲンという地域だけのためのものではない」と、同大学スポーツ科学研究所教授アルフレート・リュッテンさんは語る。

同市のスポーツ局の責任者ウルリッヒ・クレメントさんは「大学発で、地方の政治・行政によってかたちになった、一つの理想的なプログラムだ」と言う。また、同プログラムには地元の「スポーツクラブ」も協力している。スポーツクラブというと、日本ではトレーニング用のマシンが並ぶ営利のクラブを想像する人が多いと思うが、ドイツのスポーツクラブはNPOのような法人で、国内に約9万ある。同市でも約100のクラブがあり、人口の4割近くがなんらかのクラブに所属。日本では想像しづらいが、健康・余暇・コミュニティのインフラのような役割を果たしており、当然、施設や専門家、ノウハウの蓄積もある。そのようなスポーツクラブがBIGプロジェクトのパートナーになっているのだ。

参加者の女性たちは、運動を通じて自信を持ち、地域レベルでの交流関係をつくる。また、プログラムには各コース40～50人が参加しているが、最初に皆でどのように進めていくかを話し合うという。そういった行為を通じて、政治的なプロセスを学ぶこともできるわけだ。

ひるがえって10周年記念のパーティーには大学、政治家、スポーツクラブの関係者も多数参加。そして、ヒジャブと呼ばれる布をまとったイスラム圏の女性もたくさん参加していた。まさにBIG（大きな）プロジェクトである。

高松 平藏ドイツ在住ジャーナリスト

たかまつ・へいそう 1969年生まれ。京都経済新聞社等を経てフリーのジャーナリストに。97年頃からドイツ・エアランゲンと日本とを行き来し、2002年から同市を拠点に活動。また、大阪に拠点をおくNPO法人recip（レシップ）〈地域文化に関する情報とプロジェクト〉の運営にも関わっている。著書に『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか～小さな街の輝くクオリティ』（学芸出版社、2008年）など。